



RE雨宮Racing

有限会社アール・イー・アメモイヤ

〒286-0221 千葉県富里市七栄439-10

TEL:0476-90-0007/FAX:0476-91-4570

Home Page:<http://www.re-amemiya.co.jp>

E-MAIL:Racing@re-amemiya.co.jp

700kmの長丁場 7位フィニッシュ! 4ポイント獲得



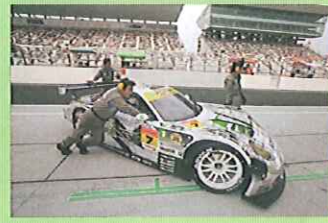
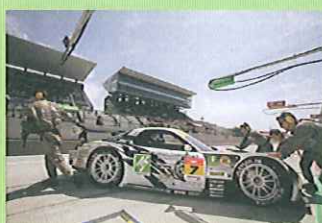
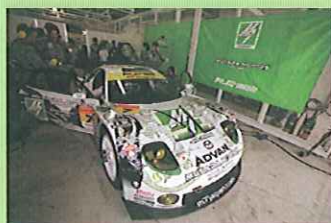
2009 AUTOBACS SUPER GT Round6
「第38回インターナショナル
ポッカGTサマーフェスティバル」
開催場所：鈴鹿サーキット
(三重県鈴鹿市稲生7992)
開催日：8月22日公式練習&予選、23日決勝
入場者数：予選日 24000人、決勝日34000人
レース距離：5.807km×81周
天候：予選日：晴れ 決勝：晴れ/曇り
路面状況：決勝：ドライ/ウエット
気温31度 路面温度42度

スーパーGT2009年シリーズ第6戦が、鈴鹿サーキットで行なわれた。夏休み恒例のこの大会は昨年まで1000kmのレースディスタンスで争われていたが、今回は700kmに短縮され、「インターナショナルPokka GTサマースペシャル」と名称も変更になった。だが、それでも通常の倍以上の距離。真夏の時期であることも加えると、シリーズで最も過酷に変わりはない。燃費面の問題からロングレースを苦手とするM7 MUTIARA MOTORS雨宮SGC-7にとっては、ことさら厳しい戦いである。しかし今回、700kmという距離に対し3ピットが義務付けられたことで、ややそのハンデは軽減された。ランキング2位でシーズンを折り返した#7 RX-7は、トップ再浮上を賭けこの大一番に挑んだ。



公式練習 8月22日(土) 10:40~12:25

土曜日、午前10時40分から、公式練習走行が行なわれた。気温33℃、路面温度は44℃。やや蒸し暑い。#7 RX-7はトラブルなく計40ラップを走行するが、順位は14位に留まった。「予想通りハンデ(96kg)が厳しくラップタイムが伸びなかったが、セッティング次第で劇的に好転するものではなく、ある程度覚悟していたこと。決勝では他と同じピット回数で戦えることにはなったが、もちろんうちはギリギリで戦略に幅がない。上位フィニッシュは簡単ではない」と、河野エンジニアは、予選、決勝ともに苦戦を予想した。



RE雨宮
RACING



RE雨宮 Racing

有限会社アール・イー・アメミヤ

〒286-0221 千葉県富里市七栄439-10

TEL:0476-90-0007/FAX:0476-91-4570

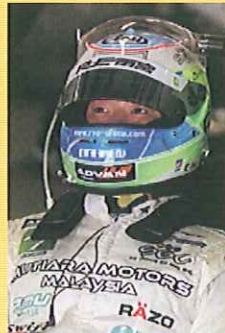
Home Page:<http://www.re-amemiya.co.jp>

E-MAIL:Racing@re-amemiya.co.jp

公式予選 8月22日(土) 14:40~16:30

第6戦は予選も特別ルールとなり、F1などでおなじみの「ノックダウン方式」が採用された。3回のセッションが行なわれ、GT300クラスの場合まず21台中トップ16がセッション2に進出。最終セッションには10台が進み、グリッド順が決められる。ただしセッション2を走ったドライバーはセッション3でアタックすることが出来ない、というGTならではの、のルールが加わっている。

気温33℃、路面温度42℃のドライコンディションで午後2時40分、公式予選が開始された。まずは、30分間の混走と10分間の占有走行によるセッション1。#7 RX-7は最初に、谷口選手がアタックを行う。2周目に2' 10.502をマークした後、オーバーステアを修正するために一旦ピットイン。その後のアタックで、2' 10.180とベストタイムを更新した。続いて折目選手がコースイン。しかしその直後にコース上でアクシデントが発生し、セッションは赤旗中断。アタックは、占有走行からとなった。折目選手は、その最初のアタックで2' 09.924のベストタイムをマーク。トップ10圏外から一時、7位へと順位を上げる。しかしその後はタイム更新ならず、セッション1を12位で通過した。



セッション2は10分間の占有走行。#7 RX-7は、谷口選手がアタックを行った。谷口選手は最初のアタックで2' 09.056をマークすると、続く2周目に2' 09.052まで削り一時3位につける。しかしライバルはさらにタイムを上げ、順位はここから後退しはじめる。もうワンアタックする時間は残されていたが、タイヤはピークを過ぎこれ以上のタイムアップは望めなかった。#7 RX-7は辛くも10位で最終セッション進出を果たした。

そして最終セッションのアタッカーは折目選手。2周目のベストタイム2' 09.343は、決勝用の硬いタイヤだったことを思えば、悪くないタイムだった。ところが順位はふるわず10位でセッションは終了。予選後トップの#66メルシエRG-1が車検失格となったため、#7 RX-7の予選順位は最終的に9位に繰り上がった。



「ガライヤやISに比べるとRX-7はウェイトの影響を受けやすいので、予選ではやや差がついてしまった。明日のレースも、うちはオーソドックスな3ピットになるので逆転は難しい。でも距離が長いのでチャンスは必ずある。いかにロスをなくすか、そして最終的に何時間何分でゴール出来るか、ということだけを考え、自分達のレースに徹します」と、谷口選手はタイトルを争うライバルに対し今回は分が悪いことを感じながらも、挽回のためにレースで全力を尽くすことを誓った。

なお、ポールポジションは#81 ダイシンフェラーリが2戦連続で獲得した。

RE雨宮
RACING



RE雨宮Racing

有限会社アール・イー・アメミヤ

〒286-0221 千葉県富里市七栄439-10

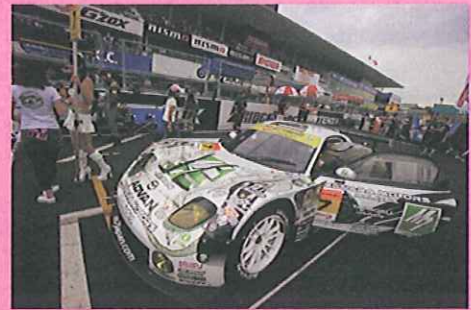
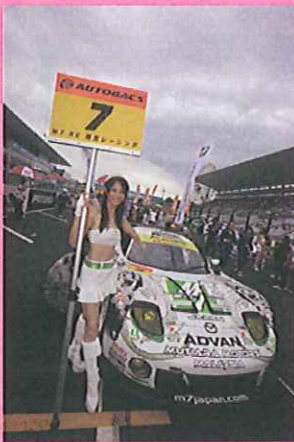
TEL:0476-90-0007/FAX:0476-91-4570

Home Page:<http://www.re-amemiya.co.jp>

E-MAIL:Racing@re-amemiya.co.jp

決勝レース 8月23日(日) 15:00~(121LAP)

予選日に続き決勝日も鈴鹿は快晴。しかしレース距離が短縮されたことで開始時刻は例年より2時間遅い午後3時となり、昨年ほどの猛暑にはならなかった。気温31℃、路面温度42℃のコンディションで、長い戦いの火蓋は切られた。



9番手スタートの#7 RX-7は予定通り、オーソドックスな戦略で700kmに挑んだ。スタートドライバーは谷口選手。2周目に一時10位に後退するが、5周目に#26ボルシェがタイヤトラブルで離脱、また8周目に前の1台がピットインしたため8位に浮上。そして11周目、1コーナーでコースアウトした2台を一気にかわすと、早くも6位にまで順位を上げる。朝のフリー走行からセッティングを変更したマシンは思いのほか調子が良く、谷口選手は序盤からプッシュした。20周目にも2台をかわし4位。さらに28周目、トップのマシンにトラブルが発生し、なんとファーストスティントで表彰台圏内にまで達した。



RE雨宮
RACING



RE雨宮Racing

有限会社アール・イー・アメミヤ

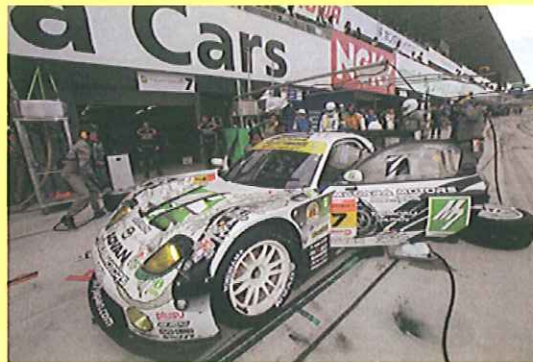
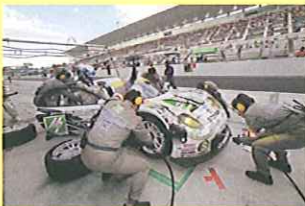
〒286-0221 千葉県富里市七栄439-10

TEL:0476-90-0007/FAX:0476-91-4570

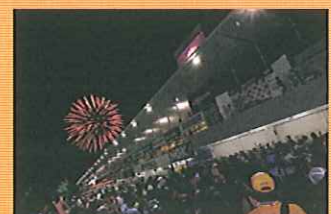
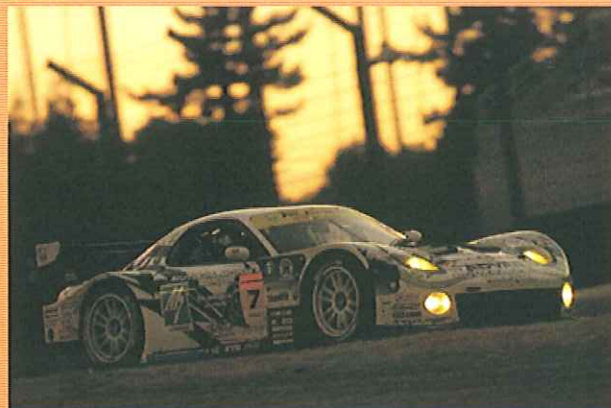
Home Page:<http://www.re-amemeiya.co.jp>

E-MAIL:Racing@re-amemeiya.co.jp

しかし、ここからが#7 RX-7にとっては試練。31周目に予定通り最初のピットに入るが、他がタイヤ2本交換やスプラッシュ&ゴーなどの変則ピットでタイムを削ってくるのに対し、#7 RX-7は4本交換を余儀なくされ、また燃料もフル給油が必要だった。折目選手が担当する第2スティントは、振り出しに戻った状態から始まった。そして、このあたりからマシンはやや、バランスが悪くなる。このため折目選手は思い通りのプッシュが出来なかったが、ミスなく順位を守り続けた。40周を過ぎたあたりから#46 MOLA Zがテール・トゥ・ノーズについてくるもこれを抑え続け、62周目に再び谷口選手にバトンを渡す。#7 RX-7はここでも4本交換とフル給油を余儀なくされたが、トラブルで戦列を離れるマシンが出たこともあり、8位に順位を上げた。ピットインの度に発生するタイムロスを埋めるために、粘り強く走った結果だった。



ロングレースは2/3を経過し78周目、ここまでスムーズだった展開が一変した。コース上でGT500のマシンが炎上してしまい、セーフティカーが出されるのだ。まだ2度しかピットインを行っていない#7 RX-7は、ここで3度目のピットイン。同じく3度目を残していたマシンが一気にピットロードになだれ込み混乱するが、#7RX-7は順位を落とすことなくコースに振り返る。最後のスティントは再び折目選手がドライブした。



RE雨宮
RACING



RE雨宮Racing

有限会社アール・イー・アメミヤ

〒286-0221 千葉県富里市七栄439-10

TEL:0476-90-0007/FAX:0476-91-4570

Home Page:<http://www.re-amemiya.co.jp>

E-MAIL:Racing@re-amemiya.co.jp

シフトチェンジの回数は通常の2倍。このため折目選手の左掌は皮が剥がれてしまった。しかしその痛みをこらえ、セーフティカーランにより前との差が詰まったことで発生した順位浮上のチャンスを逃すまいと、プッシュする。そして最終周で#81 フェラーリをかわすことに成功。#7 RX-7は112周の長い戦いを7位で終えた。



雨宮監督「重かったので、タイヤ無交換作戦が出来なかったことがキツかった。最後のピットはそれでもやろうかと思ったのだが、磨耗が予想以上に激しかった。まあ、その中でポイントが獲れたのだから、良かったのではないのでしょうか。ちょっと今回差がついてしまったけど、残り3戦で逆転出来るよう頑張ります」

谷口選手「うちにとって不利な条件のレースでポイントを獲れて良かった。タイトル争いでは差をつけられることになったけど。でもまだ争いの中にいる。次戦からハンデは軽くなるが、ライバルも強くなっているし、決して優位に戻るわけではない。それでも富士3位、オートポリス1位、もてぎ5位。残り3戦はこれを目標にします。対してライバルが何点とってくるか分からないが、とにかく最後まで精一杯戦います」



折目選手「今回は厳しかったが、うちが得意なオートポリスで優勝を狙う。もちろん次の富士でも思い切り攻めて、チームのパフォーマンスが発揮できるように、みんなで力を合わせて頑張ります」

今回の#7 RX-7の状況から考えれば、7位は健闘に値する。タイトルを獲得するためにこれは大きな意味を持つはずだ。しかしライバルはさらに上を行き、ポイントでは一歩後退してしまったのも事実。おそらく残り3戦で最低2度は優勝争いからんでいかなければ届かないだろう。次戦からウェイトは獲得ポイント×1kgに軽減される。ライバルも同条件であり優劣はないように見えるが、そうではない。これにより、#7 RX-7に“タイヤ無交換作戦”という大きな武器が復活する可能性が高いのだ。まだまだ勝負の行方は分からない。9/12,13日、富士スピードウェイで行われる第7戦で、反撃の狼煙は上がるだろうか。



RE雨宮Racing

有限会社アール・イー・アメミヤ

〒286-0221 千葉県富里市七栄439-10

TEL:0476-90-0007/FAX:0476-91-4570

Home Page:<http://www.re-amemiya.co.jp>

E-MAIL:Racing@re-amemiya.co.jp

2009 SUPER GT RD6 鈴鹿

予選結果

順位	ゼッケン	車名	ドライバー			タイム
1	81	ダイシン アドバン Ferrari	青木 孝行	藤井 誠暢	青山 光司	2'07.439
2	11	JIMGAINER ADVAN F430	田中 哲也	平中 克幸		2'07.482
3	26	UP START タイサンポルシェ	黒澤 治樹	阿部 翼	筒井 克彦	2'07.850
9	7	M7 MUTIARA MOTORS雨宮SGC 7	谷口 信輝	折目 遼		2'09.319

決勝結果

順位	ゼッケン	車名	ドライバー			周回数
1	46	エスロード MOLA Z	星野 一樹	柳田 真孝		112
2	2	ARTA Garaiya	新田 守男	高木 真一		112
3	11	アップル・K-one・紫電	加藤 寛規	吉本 大樹		112
7	7	M7 MUTIARA MOTORS雨宮SGC 7	谷口 信輝	折目 遼		112

2009 SUPER GT POINT RANKING

ポイントランキング チーム

順位	チーム	ポイント
1	AUTOBACS RACING TEAM AGURI	77
2	Cars Tokai Dream28	73
3	RACING PROJECT BANDO	73
5	M7 RE雨宮レーシング	70

ポイントランキング ドライバーズ

順位	ドライバー		ポイント
1	新田 守男	高木 真一	59
2	加藤 寛規	—	57
3	織戸 学	片岡 龍也	55
6	谷口 信輝	折目 遼	52